

東吾妻町における路線バスとスクールバスの 連携に関する調査検討

〔中間報告〕

～ 持続可能な公共交通ネットワークの再構築に向けた方策 ～



東吾妻町地域公共交通活性化協議会

令和元年10月7日 承認

「スクールバスとの連携調査」分科会 作成

目 次

1	「スクールバスとの連携調査」分科会	
(1)	分科会の概要	1
(2)	調査検討の経過等	1
2	坂上地区での試験的な運行を目指す新たな輸送サービスの検討	
(1)	最適な運行方法（連携方策案）の検討と選択	2
(2)	分科会の判断結果と運行計画	4
(3)	試験的な運行の準備と開始時期	4
3	拠点バス停のあり方検討	
(1)	「小さな拠点」の形成	4
(2)	坂上地区におけるあり方検討	4
4	まとめにかえて	6

巻末（添付資料）

資料1	乗合バス路線図（令和元年5月7日改正）
資料2	乗合バス利用者数の推移
資料3	小学校スクールバス乗車人数
資料4	中学校スクールバス乗車人数
資料5	輸送サービス（バス）関連予算の状況
資料6	連携方策案 立案資料（新たな輸送サービスの考察など）
資料7	連携方策案 立案資料（運行パターン3案）
資料8	連携方策案 立案資料（運行方法別の収支等試算）
資料9	坂上地区 運行計画(連携案)
資料10	ロードマップ〔行程表〕
参考	東吾妻町地域公共交通活性化協議会 構成名簿

【監修】

高崎経済大学 経済学部 大島登志彦 教授《交通地理学》
東吾妻町地域公共交通活性化協議会 委員（学識経験者）平成28年4月～

1 「スクールバスとの連携調査」分科会

(1) 分科会の概要

東吾妻町（以下「町」という。）は、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成 19 年法律第 59 号）に基づき地域公共交通活性化協議会（会長：町長、委員 36 名、以下「法定協議会」という。）を設置している。

この法定協議会の目的を達成するため、専門的な調査検討を行う分科会を複数組織するが、平成 28 年 8 月から「スクールバスとの連携調査」分科会（以下「分科会」という。）を招集し、学識経験者を交えて町の実情に応じた持続可能な輸送サービス（バス）のあり方を検討してきた。

○分科会の組織

【座長】高崎経済大学 経済学部 大島登志彦 教授（学識経験者）

関越交通株式会社（企画部の担当者）

ローズクィーン交通株式会社（役員及び担当者）

町教育委員会（スクールバス担当者）

町保健福祉課（福祉バス担当者）

町企画課（乗合バス担当者）

事務局（町企画課）

(2) 調査検討の経過等

法定協議会において、路線バスとスクールバスの連携を図り、効率かつ利便向上を目指す方策は中期的目標として設定したテーマであり、人口減少に対応した「持続可能な公共交通ネットワークの再構築」に繋がるテーマとして、丁寧に協議を進めてきた。

改めて、この調査検討の経過や町内で運行するバスの最新状況等を整理した。

○分科会の会議等経過(概要)

平成 28 年 8 月 24 日	分科会を初招集
平成 28 年 9 月 23 日	町内バス等現地調査（学識経験者）
平成 28 年 10 月 19 日	分科会を開催
平成 28 年 11 月 21 日	分科会を開催（運輸支局、県担当者も交え意見交換）
平成 28 年 11 月 30 日	分科会の検討結果とりまとめ（ガイドラインの案）
平成 28 年 12 月 12 日	町議会へガイドライン案を提示・説明（議員全員協議会）
平成 29 年 1 月 30 日	法定協議会へ分科会の検討結果報告（ガイドラインを承認） 「路線バスとスクールバスの連携に関する調査検討ガイドライン」
平成 29 年 5 月～	高校統廃合に伴い他の分科会を優先して開催 「大戸線・権田線見直し検討」分科会（路線再編案の検討）
平成 29 年 12 月 22 日	法定協議会へ上記の路線再編案を協議・承認、変更手続き開始
平成 30 年 4 月 1 日	大戸線・権田線の路線再編後の運行を開始
平成 30 年 6 月 27 日	路線バスとスクールバスの連携実務者協議（関越交通株）
平成 30 年 7 月 13 日	同上実務者協議（ローズクィーン交通株）
平成 30 年 12 月 12 日	同上実務者協議（ 同上 ）
令和元年 5 月 17 日	分科会を開催（今後の取組方針と進め方）
令和元年 5 月 29 日	法定協議会へ検討状況報告（坂上地区における取組方針）
令和元年 6 月 25 日	分科会を開催（連携方策案の検討）
令和元年 7 月 24 日	分科会を開催（ 同上 ）
令和元年 8 月 22 日	分科会の検討結果とりまとめ（中間報告の案）
令和元年 9 月 9 日	町議会へ中間報告案を提示・説明（行財政改革特別委員会）

○町内で運行するバスの最新状況等

- ・ 巻末資料 1 ～ 5 を参照
- ・ 令和元年 5 月 7 日現在の路線(乗合)バスの概要 [運行事業者は全て関越交通(株)]

① 湯中子線・・・群馬原町駅～泉沢・御園～湯中子（渋川市伊香保地内）

ジャンボタクシー（9 人乗り）1 台で運行

【平日 5 回運行、土日祝日は全便運休】

主な沿線施設 役場・A コープあがつま店・原町赤十字病院・太田公民館・あづま温泉桔梗館・東支所・東小学校・小野上駅

② 大戸線・・・浅間隠温泉郷～大戸～群馬原町駅・原町赤十字病院・中之条駅～吾妻中央高校 小型バス 1 台で運行

【平日 6.5 回運行、土日祝日は全便運休】 ※平成 30 年 4 月～見直し再編

主な沿線施設 坂上公民館・大戸診療所・郷原駅・A コープあがつま店・群馬原町駅
北口・役場

大戸停留所にて③権田大柏木線に乗換乗車が可能

③ 権田大柏木線・・・大柏木・浅間隠温泉郷～大戸～権田車庫（高崎市倉渚地内）

ジャンボタクシー（9 人乗り）2 台で運行

【平日 10 回運行、土日祝日は全便運休】 ※平成 30 年 4 月～見直し再編

主な沿線施設 坂上公民館・大戸診療所

大戸停留所にて②大戸線に乗換乗車が可能

④ 天狗の湯線・・・群馬原町駅～天狗の湯～群馬原町駅

ジャンボタクシー（9 人乗り）1 台で運行

【月～土は右回り 4 回・左回り 3 回運行、日祝は右・左回りとも 2 回運行】

主な沿線施設 原町赤十字病院・A コープあがつま店・役場・郷原駅・矢倉駅・麻の里会館・岩島駅・吾妻峡温泉天狗の湯

2 坂上地区での試験的な運行を目指す新たな輸送サービスの検討

分科会が平成 28 年度中にまとめた「路線バスとスクールバスの連携に関する調査検討ガイドライン」に沿った調査検討や短期的目標の取り組みを進めてきたが、スクールバスの現行委託契約がいよいよ本年度末で満了を迎える。

このため、令和 2 年度から実現を目指す方策案の検討内容を中間報告として整理した。

（1）最適な運行方法（連携方策案）の検討と選択

本年 5 月 29 日に開催した第 16 回法定協議会において、分科会の検討状況報告と併せ、今年度取組方針を次のとおり説明・確認した。

「乗合バス(権田大柏木線)について、スクールバスとの連携方策を検討・選択した上で、関越交通(株)からローズクィーン交通(株)へ事業継承を進め、令和 2 年度から坂上地区での試験的な運行を目指す。」

この方針に基づき、分科会は坂上地区での試験的な運行を目指す新たな輸送サービスの提供とその全町的な波及に向け、スピード感を持って協議に入り、その結果とりまとめた路線バスとスクールバスの連携方策案は、巻末資料 6 ～ 8 のとおりである。

なお、資料中の用語解説も併せ、地域公共交通の運行形態(例)を次頁に示す。

○道路運送法に基づく地域公共交通の運行形態(例)

乗合タクシー（路線定期運行）

乗車定員 10 名以下のタクシー車両を使用し、路線バスと同様に運賃を定め、定時刻に決められたルートを行くもので、コストを少しでも削減して、住民の足を確保するために運行するもの。※現在の権田大柏木線はこの形態。

- 乗客が少ない地域、道路幅員の狭い地域などの運行に有効な交通手段。
- ▲ 乗車定員が少ないため、通勤通学ラッシュのある路線には向かない。バスと同じように、利用者がいない場合も運行される。

デマンド型乗合タクシー（路線不定期運行）

利用者のデマンド（乗りたいという求め）に合わせて走行する運行形態。乗車の予約を電話などで行い、それに合わせた配車によって、定められた路線を行く乗合タクシーで、設定するルートの起点又は終点に係る時刻の設定をしないで運行するもの。

- 需要があった時刻と区間だけの運行なので、効率よい運行ができる。
- ▲ 予約の煩わしさがある。

デマンド型乗合タクシー（区域運行）

利用者のデマンドに合わせて走行する運行形態。乗車の予約を電話などで行い、それに合わせた配車によって、決められた区域内を行く乗合タクシーで、路線・停留所を定めずに運行するもの。（戸口～戸口）

- 停留所まで行く必要がなく停留所までの足の無い高齢者など、自宅から目的地までいける。需要があったときだけの運行なので、効率よい運行ができる。
- ▲ 予約の煩わしさがある。予約状況によって、運行ルートや乗車時間に変動がある。

自家用有償旅客運送

市町村等が所有する自家用車両を用いて、一つの市町村の区域内の住民の運送を行う形態。具体的には、生活バス路線の廃止など（交通空白地）に伴い、その代替手段として、住民の足を確保することを主目的に国土交通大臣等の登録を受けて運行するもの。

- 市町村等の直営で行うため、町のバス運行に対する考え方（バス停や車両のデザイン、バス停の位置や間隔、路線・車両決定など）をそのまま反映した運行が可能。また、市町村等が従来保有していたスクールバスや福祉バス等を利用することができ、これらの一本化・効率化を図ることができる。
- ▲ 受託事業者が存在しない場合や、委託料が高くなってしまう場合もある。車庫や停留所の設備など初期投資が嵩むことがある。運行管理など市町村の事務負担が増加する。（運転や車両管理業務は委託可能）

(2) 分科会の判断結果と運行計画

最適な運行方法の立案作業を進め、検討した結果、分科会では次の判断に至った。

「具体的な連携方策案として3つの運行方法に分類し、将来推計も踏まえた立案を各々で行った結果、総合的に判断すると〔② 併用型+α〕の運行方法が最適と考える。」

また、この判断結果に基づき、坂上地区における新たな輸送サービスの運行計画(連携案)を巻末資料9のとおり作成した。

(3) 試験的な運行の準備と開始時期

分科会では、上記の判断により新たな輸送サービスの提供を坂上地区で進める場合に予定される関係会議や手続き、運行準備等の行程案も巻末資料10のとおり検討した。

その結果、大幅な見直しに伴う運行調整や関係法令の変更手続き、事業者間の引継ぎ準備、そして最も多くの利用者となる児童生徒への影響を考慮し、現段階では令和2年度の2学期(夏休み明け)からの運行開始が現実的な時期と考えた。

3 拠点バス停のあり方検討

わが町は、253.91 km²の広大な町域を有し、そのうち森林面積が約8割を占める中山間地域であるが、若年層の流出とそれに伴う人口減少・高齢化の進展から、過疎地域自立促進特別法(平成12年号外法律第15号)の規定による「過疎地域」に町内全域が指定される市町村である。

このような条件不利な状況において、町民が住み慣れた地域で、生涯にわたり健やかにいきいきと快適に暮らし続けることができるよう、利便性の高い効率的で持続可能な公共交通ネットワークを再構築していくことが求められている。

そこで、分科会が調査検討を進めていく中で「拠点バス停」のあり方にも着目したが、今後、新たな輸送サービスの提供を全町的に波及するためには、この内容を併せて検討していくことが必要と考える。

(1) 「小さな拠点」の形成

近年、地方創生を声高に掲げる中で、国土交通省や総務省では人口減少や高齢化が先行・加速する地方の条件不利地域において、公益サービス、生活サービス、地域活動等の維持確保を図るため、市町村内の集落の活性化に資することを目的に「小さな拠点」の形成を推進している。

この「小さな拠点」とは、複数の集落が散在して形成される小学校区などの地域において、公共施設、商店、診療所等の日常生活に不可欠な施設・機能や地域活動を行う場を歩いて動ける範囲に集め、さらに各集落や周辺の地域との間をコミュニティバスなどの交通手段により結んだその地域の拠点のことを言う。

(2) 坂上地区におけるあり方検討

現行の坂上地区の路線バス運行において、異なる方面へのバスに乗り継ぐ際は「大戸」停留所が旧来から重要な役割を担ってきた。

しかしながら、スクールバスと連携した運行で今より待機スペースが必要なことと、「小さな拠点」の形成を勘案すれば、近くに診療所もあり坂上小学校・こども園・公民館など公共施設に隣接する旧坂上小学校の跡地を利活用した「拠点バス停」の整備を行い、地区内の集落や市街地とつながる生活交通の拠点づくりの検討が必要と考える。

○「小さな拠点」のイメージ《国土交通省国土政策局の資料から引用》



○現在の乗り継ぎバス停（大戸停留所、乗り継ぎの様子）



○拠点バス停の整備候補地（現さかうえこども園前停留所、旧坂上小学校跡地）



4 まとめにかえて

東吾妻町地域公共交通活性化協議会
「スクールバスとの連携調査」分科会
座長 大島登志彦

東吾妻町内の路線バスは、昭和の時代には、東武鉄道と国鉄バス、群馬バスが地域を分担して運行されてきたが、不採算と利用者の減少を理由に撤退し、全路線ともに関越交通（当初は吾妻観光自動車）が継承し、廃止代替バス形態による委託運行へと置き換えられてきた。

今日までの間、坂上地区では、平成 22 年から大柏木～中之条間と権田車庫～清水間を大戸線と権田清水線に見直し、後者をジャンボタクシー（9 人乗り）車両 2 台運行により、浅間隠温泉郷まで延長した。また、平成 30 年からは大戸線関連部分で、吾妻中央高校の開校に合わせて同校までの路線延長と坂上地区の運行系統の再編（大戸線と権田大柏木線に見直し）を行ってきたところである。

他の地区においても、平成 27 年 4 月の中学校統合に伴うスクールバス増強に際して、東地区での児童生徒の通学が路線バスからスクールバスに切り替わり、湯中子線はバス利用が極端に減少したため、平成 28 年からバス 2 台から 1 台運行体制として減便、さらに平成 29 年からはジャンボタクシー（9 人乗り）車両に変更するなど、コスト削減を含め、その効果がすぐに期待できる取り組みを進めてきた。

これらの取り組みによって、バス利用者や収支は、一部の路線を除き群馬県の補助対象要件を満たしていないものの、減少傾向に一定の歯止めがかかるとともに、町のバス関連予算の節減効果もあったと思われる。

しかしながら、スクールバス増強の一端で、湯中子線に見るように、バス運行の不合理な部分も生じてきたことは課題である。

そのような状況の中で、法定協議会では、坂上地区をメインに、高崎市との連絡調整や吾妻高校の統廃合に伴う路線再編の検討を進めてきたわけであるが、同地区は、集落が分散して人口減少も顕著なことからも、路線バスとスクールバスの連携を進めるモデル地域と位置付け、当分科会が招集され、事例検討を担ってきたところでもある。

今後、町の少子高齢化が一層進むことは予想されるので、ここでの議論や方向性は、通学児童生徒の足も含めた地域公共交通の指針に繋がるとの認識で、文部科学省の調査結果なども参考にしながら整理し、次の 3 つの案を主軸（巻末資料 6）に議論を進めた。

- ① **従来踏襲型**：現行通り、スクールバスと路線バスを切り離した運行を継続する。
- ② **併用型＋ α** ：路線バス専用車両を減らし、スクールバスと路線バスの連携した運行を行い、朝夕は路線定期運行、日中は区域運行（＋ α ）とする。
- ③ **交通資源活用型**：スクールバスを廃止し、児童生徒は路線バスによる通学とする。

議論の骨子としては、住民の利便を考慮しつつ、中学校統合後の 5 年間（令和元年度限り）で打ち切られる国庫補助金（へき地児童生徒援助費等）分の町の負担増や国から地方自治体への財政措置である普通交付税・特別交付税などを考慮し、町の実質負担額の軽減を目指して、その試算やシミュレーション等を行った（巻末資料 8）。

その結果、車両運用や関係機関への届出、運行時刻の設定等の細部調整事項の検討はさらに進める必要があるものの、次の方向性で結論付けた。

① 案は、現行通りの運行を継続するもので、単純に現行の国庫補助金（へき地児童生徒援助費等）1200 万円以上が負担増となり、町の実質的な負担額は最大となる（年間約 2082 万円）と試算した。

② 案は、現行のスクールバス 5 台を 2 台へ見直すとともに、3 台は路線と併用させ、純粋な路線バス車両は大戸から原町方面への 1 台とするもので、この場合、併用車両 3 台分はスクールバスと路線バスのどちらも交付税措置の基礎数値へ含むことができることから、町の実質的な負担額は、国庫補助金が打ち切られても、現行より 290 万円以上減額（年間約 597 万円）と試算した。また、この併用車両 3 台は、朝夕に児童生徒の通学重視の「路線定期運行」、日中に交通手段の無い高齢者等の利便性重視の「区域運行型デマンド交通」を導入していくことで、いわゆる交通弱者対策を強化するとともに、新たに設ける拠点バス停で原町方面への接続を効率よく行う運行計画である。

③ 案は、朝夕のスクールバスに準じた運行を路線バスで賄うため、スクールバスを廃止したとしても、路線バスは計 5 台が必要になると想定するが、この場合、スクールバス数に応じた普通交付税措置がなくなり、かつ小中学生の路線バス定期券を町が負担（年間約 700 万円）していくことを考えると、②案の 2 倍以上になる（年間約 1463 万円）と試算した。

以上の検討結果から、②案が最適と判断したが、 $+\alpha$ 効果として、区域運行の導入と年間運行日数の増により、高齢化が進む坂上地区において、新たな輸送サービスの提供が試行できるとともに、今回の検討に際し、坂上地区は集落が散在して形成されていることや、スクールバスと連携した運行方法によって、現在よりも車両待機スペースが必要なことなどから、「拠点バス停」のあり方についても提案した。

また、町内の路線バスの運賃設定については、一般路線バス廃止時の運賃をほぼ継承してきたと考える。しかし、この運賃水準は、都市部の委託路線バスに均一または段階運賃が普及し、景気の低迷や実質賃金が停滞する昨今に至っては、割高感のある運賃となっている。

近年、高校生や高齢者等、従来バスを愛用してきた方々の利用が激減し、特に高校生は、家族の車で学校や鉄道の駅まで送迎する割合が高い状況を推察すると、家族に負担を強いる自家用車送迎に頼らず、路線バスを手軽に利用できるように毎日の運賃負担を軽減する「フリーパス券（巻末資料 7-②の仮称「水仙ちゃんバスパスポート」、半年 30000 円程度が妥当と考える）」の導入も提案したい。

以上、今回「スクールバスとの連携調査」として、坂上地区をモデルとしたスクールバスと路線バスの連携方策案を検討したが、これは、「持続可能な公共交通ネットワークの再構築」として、町が総合計画に掲げる重点施策のひとつと聞いている。

この新たな輸送サービスの提供について、令和 2 年度中に試行できるように準備を進めていただきたい。また、この検討内容は、東・太田地区や岩島地区へも波及できると考え、引き続いての議論を要望するものである。

令和元年 8 月 29 日



坂上・岩島地区を走るスクールバス（ローズクィーン交通㈱の保有車両）



ぐんま乗換 コンシェルジュ



----- 公共交通・観光・健康情報アプリ -----

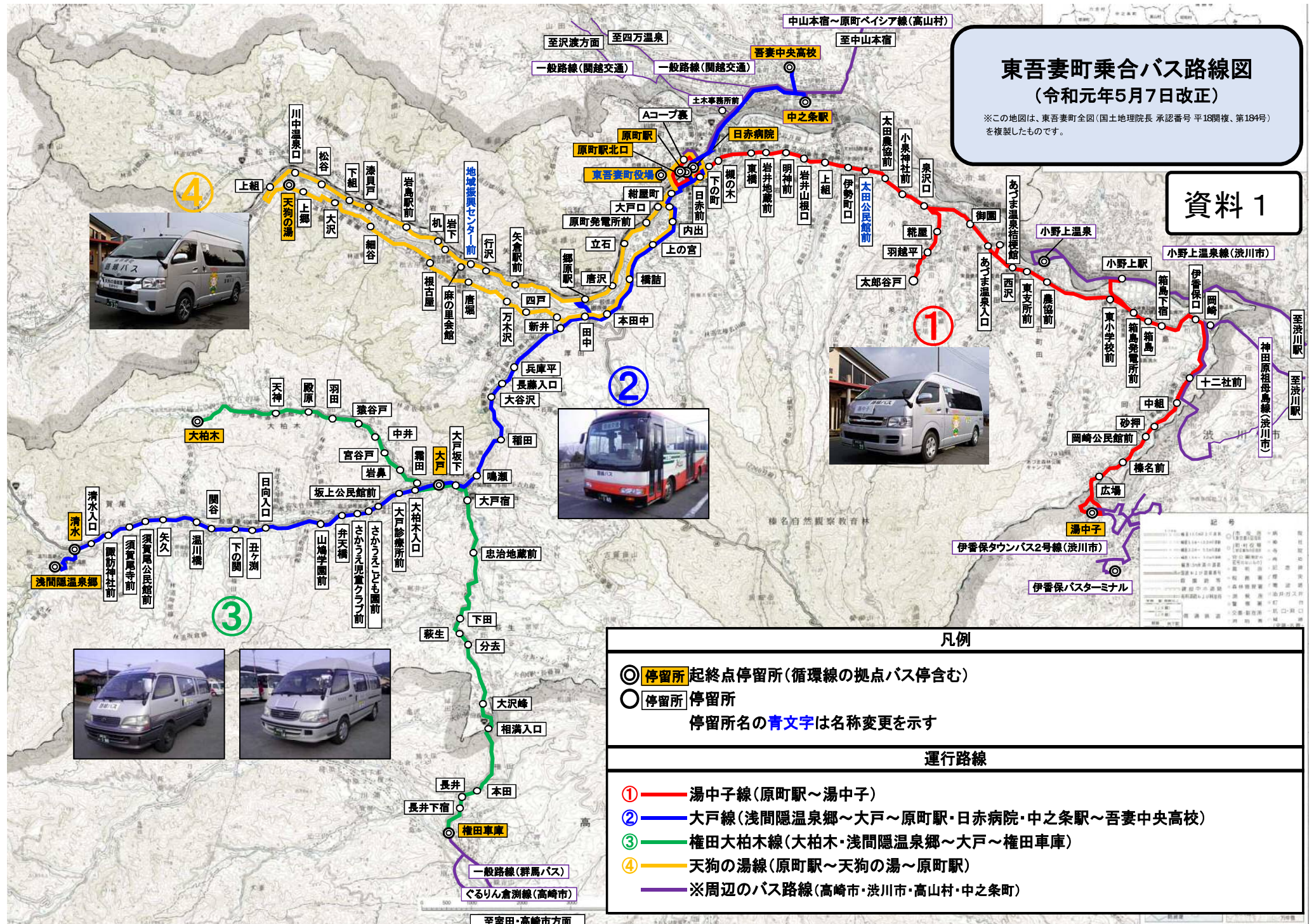


群馬県 県土整備部 交通政策課よりロゴ等提供（県内市町村と連携して開発）

東吾妻町乗合バス路線図 (令和元年5月7日改正)

※この地図は、東吾妻町全図(国土地理院長 承認番号 平1804複、第184号)を複製したものです。

資料 1



東吾妻町の乗合バス利用者数の推移（現行の4路線形態に変更してからの推移）

運行路線名	① 湯中子線	② 大戸線	③ 権田線	④ 天狗の湯線
【年度】	【年間利用者数(人)】			
平成30年度	2,048	4,738	1,910	2,898
平成29年度	1,840	4,807	3,417	2,952
平成28年度	2,036	4,589	3,452	3,831
平成27年度	2,764	4,532	3,006	4,050
平成26年度	22,078	5,082	3,730	4,056
平成25年度	20,494	5,923	4,019	4,209
平成24年度	22,272	5,535	4,300	5,372
平成23年度	25,622	5,391	4,155	5,777
平成22年度	23,512	4,811	4,135	6,384
平成21年度	24,811	11,496	6,248	6,337
平成20年度	26,523	13,098	7,205	6,930

（補足説明）

- ① ・ 湯中子線については、昭和62年4月から不採算路線として廃止代替えバスで順次引き継いだ「泉沢線（原町～御園）」、「御園線（渋川～御園）」と「旧湯中子線（小野上～湯中子）」を統合改変し、平成20年4月より運行開始したもの。
 ・ 湯中子線について、平成27年4月から中学校統合に伴うスクールバス運行再編によって児童、生徒の年間を通じた登校及び下校の利用がなくなったことで大幅な減少となる。
 ・ 湯中子線について、平成28年より路線延伸や車両小型化など見直しに取り組んだ。
- ② ・ 大戸線については、昭和63年4月から不採算路線として廃止代替えバスで引き継いだ路線を（大柏木～中之条）見直し、平成22年4月より運行開始したもの。
 ・ 大戸線について、平成30年4月から路線再編（中之条まで延伸等）した。〔高校統廃合など〕
- ③ ・ 権田線については、平成5年10月から不採算路線として廃止代替えバスで引き継いだ路線を（権田車庫～清水）見直し、平成22年4月より運行開始したもの。
 ・ 権田線について、平成30年4月から路線再編（権田車庫～大柏木）した。〔高校統廃合など〕
- ④ ・ 天狗の湯線については、平成8年4月から不採算路線として廃止代替えバスで引き継いだ路線（中之条～長野原）を循環系統（原町駅～天狗の湯～原町駅）として見直し、平成13年6月頃より運行開始したもの。
 ・ 天狗の湯線について、平成29年3月から使用車両を更新（新車）した。

○4路線について、平成29年4月から割引率の高いバスカード回数券（磁気式）を導入した。

小学校

【全地区】赤字:中学校との相違箇所

No.	停留所名	乗車人数
	広場	名
1	榛名前	1名
2	岡崎公民館前	5名
3	砂押	15名
4	中組	1名
5	伊香保口	3名
	箱島	名
	箱島発電所前	名
	箱島団地口	名
	東中学校前 ※旧	名
6	農協前(東)	5名
7	東支所前	1名
8	平高	6名
	滝ノ沢	名
9	奥田公民館前	5名
10	温泉入口	7名
11	御園	7名
※	新井(太田)	1名
	浜井場	名
※	程岩	1名
※	靴屋	1名
	泉沢口	名
	小泉神社前	名
	農協前(太田)	名
	支所前 ※太田公民館	名
	伊勢町口	名
12	松谷回転場	1名
13	天狗の湯	3名
14	川中温泉口	2名
	松谷多目的集会所	名
15	松下	1名
	漆貝戸	名
	岩島駅前	名
	天神(岩島)	名
	岩下	名
	岩中前 ※旧	名
	矢倉駅前	名
	上郷	名
	大沢	名
16	細谷	1名
	根古屋	名
17	唐堀	11名
18	万木沢	1名
19	四戸	4名
20	郷原駅前	10名
	大柏木	名
	天神(坂上)	名
21	殿原	2名
22	猿谷戸	2名
	中井	名
23	岩鼻	1名
	霜田	名
24	清水	5名
25	須賀尾公民館前	6名
26	関谷	3名
	丑ヶ淵	名
	日向	名
27	日向会館	1名
28	道泉谷戸	1名
29	大久保	2名
30	西榛名婦人ホーム	6名
31	分去	2名
32	下田	9名
33	後所谷戸	1名
34	大戸宿	2名
35	大運寺前	1名
	稲田	名
36	大谷沢	1名
	長藤入口	名
37	兵庫	2名
	新井(岩島)	名
	長藤口	名
38	田中	4名
39	烏帽子	4名
	合計	148名

(令和元年5月1日現在)

東小学校 児童数	84名
太田小学校 児童数	109名
原町小学校 児童数	190名
岩島小学校 児童数	76名
坂上小学校 児童数	47名
児童数 合計	506名

学校毎

【東小学校】 関越交通線

No.	停留所名	乗車人数
1	榛名前	1名
2	岡崎公民館前	5名
3	砂押	15名
4	中組	1名
5	伊香保口	3名
6	農協前(東)	5名
7	東支所前	1名
8	平高	6名
9	奥田公民館前	5名
10	温泉入口	7名
11	御園	7名
	合計	56名

【太田小学校】 関越交通線

No.	停留所名	乗車人数
※	新井(太田)	1名
※	程岩	1名
※	靴屋	1名
	合計	3名

※中学校スクールバスに混乗する。

【岩島小学校】 ローズウィーン交通線

No.	停留所名	乗車人数
1	松谷回転場	1名
2	天狗の湯	3名
3	川中温泉口	2名
4	松下	1名
5	細谷	1名
6	唐堀	11名
7	万木沢	1名
8	四戸	4名
9	郷原駅前	10名
10	兵庫	2名
11	田中	4名
12	烏帽子	4名
	合計	44名

【坂上小学校】 ローズウィーン交通線

No.	停留所名	乗車人数
1	殿原	2名
2	猿谷戸	2名
3	岩鼻	1名
4	清水	5名
5	須賀尾公民館前	6名
6	関谷	3名
7	日向会館	1名
8	道泉谷戸	1名
9	大久保	2名
10	西榛名婦人ホーム	6名
11	分去	2名
12	下田	9名
13	後所谷戸	1名
14	大戸宿	2名
15	大運寺前	1名
16	大谷沢	1名
	合計	45名

合計 148名

バス毎

【① 岡崎方面～東小 間】

No.	停留所名	乗車人数
1	榛名前	1名
2	岡崎公民館前	5名
3	砂押	15名
4	中組	1名
5	伊香保口	3名
	合計	25名

【② 平高～五町田～東小 間】

No.	停留所名	乗車人数
1	平高	6名
2	奥田公民館前	5名
3	東支所前	1名
4	農協前(東)	5名
	合計	17名

【③ 新巻方面～東小 間】

No.	停留所名	乗車人数
1	御園	7名
2	温泉入口	7名
	合計	14名

【中学校3号車に混乗 泉沢～太田小】

No.	停留所名	乗車人数
※	新井(太田)	1名
※	程岩	1名
※	靴屋	1名
	合計	3名

【④ 三島～松谷経由～岩島小 間】

No.	停留所名	乗車人数
1	四戸	4名
2	万木沢	1名
3	唐堀	11名
4	細谷	1名
5	天狗の湯	3名
6	松谷回転場	1名
7	川中温泉口	2名
8	松下	1名
	合計	24名

【⑤ 烏帽子～郷原駅経由～岩島小 間】

No.	停留所名	乗車人数
1	烏帽子	4名
2	田中	4名
3	兵庫	2名
4	郷原駅前	10名
	合計	20名

【⑥ 救生・大柏木方面～坂上小 間】

No.	停留所名	乗車人数
1	西榛名婦人ホーム	6名
2	大久保	2名
3	分去	2名
4	下田	9名
5	後所谷戸	1名
6	大戸宿	2名
7	殿原	2名
8	猿谷戸	2名
9	岩鼻	1名
	合計	27名

【⑦ 須賀尾・大谷沢方面～坂上小 間】

No.	停留所名	乗車人数
1	清水	5名
2	須賀尾公民館前	6名
3	関谷	3名
4	日向会館	1名
5	道泉谷戸	1名
6	大谷沢	1名
7	大運寺前	1名
	合計	18名

合計 148名

スクールバス利用率 29.2%

中学校

【全地区】赤字:平成28年度から変更(変化)箇所

No.	停留所名	乗車人数
	広場	0名
1	榛名前	1名
2	岡崎公民館前	2名
3	砂押	5名
	中組	0名
4	伊香保口	1名
5	箱島	5名
6	箱島発電所前	2名
7	箱島団地口	9名
8	東中学校前 ※旧	3名
9	農協前(東)	2名
	東支所前	0名
10	平高	3名
11	滝ノ沢	1名
12	奥田公民館前	2名
13	温泉入口	1名
14	御園	8名
	新井(太田)	0名
	浜井場	0名
	程岩	0名
	太郎谷戸	0名
	泉沢口	0名
15	小泉神社前	1名
16	農協前(太田)	2名
17	支所前 ※太田公民館	8名
18	伊勢町口	5名
	松谷回転場	0名
19	天狗の湯	3名
20	川中温泉口	3名
21	松谷多目的集会所	1名
22	松下	3名
	漆貝戸	0名
23	岩島駅前	4名
24	天神(岩島)	2名
25	岩下	3名
26	岩中前 ※旧	1名
27	矢倉駅前	10名
	上郷	0名
	大沢	0名
	細谷	0名
28	根古屋	1名
29	唐堀	3名
30	万木沢	2名
31	四戸	2名
32	郷原駅前	4名
33	大柏木	1名
	天神(坂上)	0名
34	殿原	1名
35	猿谷戸	2名
36	中井	2名
37	岩鼻	1名
	霜田	0名
38	清水	1名
39	矢久	6名
40	関谷	1名
	丑ヶ淵	0名
41	日向	1名
42	日向会館	1名
43	道泉谷戸	2名
44	弁天橋	2名
45	大戸診療所前 ※旧	1名
46	分去	1名
47	下田	3名
	後所谷戸	0名
48	大戸宿	5名
	大運寺前	0名
	稲田	0名
49	大谷沢	2名
	長藤入口	0名
	兵庫平	0名
	新井(岩島)	0名
	長藤口	0名
50	田中	1名
51	烏帽子	2名
	合計	139名

地区毎

【東地区】 関越交通(株)

No.	停留所名	乗車人数
1	榛名前	1名
2	岡崎公民館前	2名
3	砂押	5名
4	伊香保口	1名
5	箱島	5名
6	箱島発電所前	2名
7	箱島団地口	9名
8	東中学校前 ※旧	3名
9	農協前(東)	2名
10	平高	3名
11	滝ノ沢	1名
12	奥田公民館前	2名
13	温泉入口	1名
14	御園	8名
	合計	45名

【太田地区】 関越交通(株)

No.	停留所名	乗車人数
1	小泉神社前	1名
2	農協前(太田)	2名
3	支所前 ※太田公民館	8名
4	伊勢町口	5名
	合計	16名

【岩島地区】 ローズクィーン交通(株)

No.	停留所名	乗車人数
1	天狗の湯	3名
2	川中温泉口	3名
3	松谷多目的集会所	1名
4	松下	3名
5	岩島駅前	4名
6	天神(岩島)	2名
7	岩下	3名
8	岩中前 ※旧	1名
9	矢倉駅前	10名
10	根古屋	1名
11	唐堀	3名
12	万木沢	2名
13	四戸	2名
14	郷原駅前	4名
15	田中	1名
16	烏帽子	2名
	合計	45名

【坂上地区】 ローズクィーン交通(株)

No.	停留所名	乗車人数
1	大柏木	1名
2	殿原	1名
3	猿谷戸	2名
4	中井	2名
5	岩鼻	1名
6	清水	1名
7	矢久	6名
8	関谷	1名
9	日向	1名
10	日向会館	1名
11	道泉谷戸	2名
12	弁天橋	2名
13	大戸診療所前 ※旧	1名
14	分去	1名
15	下田	3名
16	大戸宿	5名
17	大谷沢	2名
	合計	33名

合計 139名

号車毎

【1号車 榛名前～農協前(東)間】

No.	停留所名	乗車人数
1	榛名前	1名
2	岡崎公民館前	2名
3	砂押	5名
4	伊香保口	1名
5	箱島	5名
6	箱島発電所前	2名
7	箱島団地口	9名
8	東中学校前 ※旧	3名
9	農協前(東)	2名
	合計	30名

【2号車 平高～御園 間】

No.	停留所名	乗車人数
1	平高	3名
2	滝ノ沢	1名
3	奥田公民館前	2名
4	温泉入口	1名
5	御園	8名
	合計	15名

【3号車 小泉神社前～伊勢町口 間】

No.	停留所名	乗車人数
1	小泉神社前	1名
2	農協前(太田)	2名
3	支所前 ※太田公民館	8名
4	伊勢町口	5名
	合計	16名

【4号車 天狗の湯～矢倉駅前 間】

No.	停留所名	乗車人数
1	天狗の湯	3名
2	川中温泉口	3名
3	松谷多目的集会所	1名
4	松下	3名
5	岩島駅前	4名
6	天神(岩島)	2名
7	岩下	3名
8	岩中前 ※旧	1名
9	矢倉駅前	10名
	合計	30名

【5号車 烏帽子～根古屋 間】

No.	停留所名	乗車人数
1	烏帽子	2名
2	四戸	2名
3	万木沢	2名
4	唐堀	3名
5	根古屋	1名
	合計	10名

【6号車 大柏木～郷原駅前 間】

No.	停留所名	乗車人数
1	大柏木	1名
2	殿原	1名
3	猿谷戸	2名
4	中井	2名
5	岩鼻	1名
6	大谷沢	2名
7	郷原駅前	4名
	合計	13名

【7号車 清水～大戸診療所前 間】

No.	停留所名	乗車人数
1	清水	1名
2	矢久	6名
3	関谷	1名
4	日向	1名
5	日向会館	1名
6	道泉谷戸	2名
7	弁天橋	2名
8	大戸診療所前 ※旧	1名
	合計	15名

【8号車 分去～田中 間】

No.	停留所名	乗車人数
1	分去	1名
2	下田	3名
3	大戸宿	5名
4	田中	1名
	合計	10名

合計 139名

(令和元年5月1日現在)

東吾妻中学校 生徒数 286名

スクールバス利用率 48.6%

東吾妻町の輸送サービス（バス）関連予算の状況

【平成30年度】運行実績に基づく試算

○乗合バス	関越交通(株)への運行費補助金交付総額	37,608,292 円
（企画課）	うち群馬県の補助金	1,279,000 円
※大戸線及び	うち高崎市の負担金（榑田線）	1,756,880 円
榑田線を再編	うち町費負担額 ①	34,572,412 円
	特別交付税による措置（①×80%）	27,658,000 円
	町の実質負担額 ②	6,914,412 円

○スクールバス	運行事業者への業務委託料	129,871,956 円
（教育委員会）	うち国庫補助金（へき地児童生徒援助費等）31年度まで	29,137,000 円
	うち普通交付税による措置（500万円/台×15台）	75,000,000 円
	町の実質負担額 ③	25,734,956 円
	ほか校外活動等に係る車両借上料（町費）④	9,404,999 円

○福祉バス	運営事業者への町費委託料 ⑤	535,540 円
（保健福祉課）	※東地区内を2つの運行区間に分け、週1回1往復運行（会員登録制）	

バス関連 合計

1年間の町費負担額（②+③+④+⑤）	42,589,907 円
--------------------	--------------

【平成27年度】運行実績に基づく試算

○乗合バス	関越交通(株)への運行費補助金交付総額	42,547,042 円
（企画課）	うち群馬県の補助金	3,923,000 円
	うち高崎市の負担金（榑田線）	1,601,469 円
	うち町費負担額 ①	37,022,573 円
	特別交付税による措置（①×80%）	29,618,000 円
	町の実質負担額 ②	7,404,573 円

○スクールバス	運行事業者への業務委託料	133,106,177 円
（教育委員会）	うち国庫補助金（へき地児童生徒援助費等）31年度まで	29,117,000 円
	うち普通交付税による措置（500万円/台×15台）	75,000,000 円
	町の実質負担額 ③	28,989,177 円
	ほか校外活動等に係る車両借上料（町費）④	8,105,078 円

○福祉バス	運営事業者への町費委託料 ⑤	812,160 円
（保健福祉課）	※東地区内を2つの運行区間に分け、週1回1往復運行（会員登録制）	

バス関連 合計

1年間の町費負担額（②+③+④+⑤）	45,310,988 円
--------------------	--------------

『路線バスとスクールバスの連携を図り、効率かつ利便向上を目指す方策』立案資料

～ 坂上地区での試験的な運行を目指す新たな輸送サービスの提供とその全町的な波及に向けて ～

東吾妻町地域公共交通活性化協議会
「スクールバスとの連携調査」分科会 作成

◎ 最適な運行方法（連携方策案）の検討と選択

(1) 坂上地区における路線バスとスクールバスの現状と課題等

【路線（乗合）バス】 運行事業者：関越交通株式会社

- ① 平成30年4月1日から路線再編した運行形態で、高校統廃合など契機に運行経路・ダイヤ見直しを実施
- ② 大戸線（須賀尾～大戸～原町～中之条町地内）と権田大柏木線（大柏木～高崎市倉渚地内）の2路線
※道路運送法第3条の「一般乗合旅客自動車運送事業」の許可申請に基づく定時定路線（利用者は不特定）
- ③ 使用車両は、小型バス1台（大戸線）と9人乗りワゴン車2台（権田大柏木線）
- ④ 2路線とも土曜日・日曜日・祝日は全便運休
- ⑤ 路線再編後の利用状況は概ね次のとおり（平成30年4月～平成31年3月の1年間）
「大戸線」 4,738人 運行日数 247日 平均人数 19人/日
「権田大柏木線」 1,910人 運行日数 247日 平均人数 8人/日
- ⑥ 運行費の欠損額を町は赤字補填（補助金）、群馬県市町村乗合バス補助金は収支率の基準から交付停止
「大戸線」 H29実績 収入 1,328千円 費用等 9,023千円 損益(赤字) **-7,695千円**
「権田大柏木線」 H29実績 収入 1,080千円 費用等 15,230千円 損益(赤字) **-14,150千円**
- ⑦ 権田大柏木線について、高崎市から運行協定に基づく一部負担あり（走行距離）H29実績 1,896千円
- ⑧ 町の運行補助に対して、毎年度国から特別交付税の措置あり（地方バス路線運行維持対策：80%）

【スクールバス】 運行事業者：ローズクィーン交通株式会社

- ① 平成27年4月からの中学校統合に合わせ、町内を3ブロックに分け増強した運行形態（坂上地区はCブロック）
- ② 運行事業者の選定は公募型プロポーザル方式を採用し、A～Cブロック毎に運行業務委託契約を締結（5年間）
なお、契約にあたり「債務負担行為」の議会議決を経た（平成27年3月16日、限度額(全体):715,765千円）
※道路運送法第3条の「一般貸切旅客自動車運送事業」の許可申請に基づく児童・生徒の運送（利用者は特定）
- ③ 使用車両は、坂上小学校バス2台（中型1・小型1）と中学校バス3台（小型3）
- ④ 中学校の通学は朝2便・夕2便と土曜日・長期休業中の部活動は朝1便・昼1便を原則として運行
- ⑤ 児童・生徒の利用状況は概ね次のとおり（令和元年5月1日現在）
「坂上小学校」 45人 全校児童 47人 利用率 96%
「中学校(坂上)」 33人 全校生徒 286人 利用率 100%（中学校全体の利用率:48.6%）
- ⑥ 町は、委託料を一月ごとに契約単価に基づき実走距離・実走時間運賃の合計額を支払い
なお、契約時における見積額は概ね次のとおり（平成27年4月1日契約締結）
「坂上小学校」 1年間（2台）税込 15,360千円 5年間（2台）税込 76,800千円
「中学校(坂上)」 1年間（3台）税込 31,285千円 5年間（3台）税込 156,426千円
- ⑦ 中学校統合で平成31年度まで5年間の国庫補助あり（へき地児童生徒援助費等）H29実績 27,465千円
- ⑧ 町のスクールバス運行に対して、毎年度国から普通交付税の措置あり（1台あたり500万円）

(2) 坂上地区における公共交通への期待（平成29年6月実施の町民アンケート調査結果などから）

- ・東吾妻町に住みにくい理由 ⇒ 「交通の便が悪い」は7割以上で特に高く、次いで「買い物が不便」が5割以上
坂上地区 ⇒ 「交通の便が悪い」は87.0%、「買い物が不便」は75.3%と全町のうちで最も高い傾向
- ・まちづくり施策の評価(42項目) ⇒ 「バス・鉄道など公共交通の充実」は重要度が78.5%、満足度は12.1%
坂上地区 ⇒ 全町のうちで重要度は最も高く、満足度は最も低い結果であり、不満度が高い地区
- ・また、運転免許の自主返納に伴い、バス運賃の割高感解消など利便向上の対応が必要（高齢者の移動手段確保）

・年間免許返納者								・高齢者人口（65歳以上）	坂上地区：大字大戸・萩生・本宿・須賀尾・大柏木	
H29: 64人	坂上地区	男	548人	女	687人	計	1,235人	22.59%		
H30: 55人	（全町）	男	2,442人	女	3,024人	計	5,466人			

資料：総務課(交通安全対策)、町民課(令和元年5月31日現在)より

(3) 連携方策案の絞り込み（運行方法）

全国の自治体におけるスクールバスの導入状況（文部科学省調査）と当分科会がまとめたガイドライン（平成29年1月作成）等を基に調査検討を進め、次のとおり連携方策案を整理した。
なお、全国の自治体のうち、62.7%がスクールバスを導入している。

- ① **スクールバスのみ運行** ⇒ **「従来踏襲型」**
スクールバスを導入している全国の自治体のうち、44.5% が行う形態である。
- ② **スクールバスの運行と路線バス等の活用を併用** ⇒ **「併用型」**
スクールバスを導入している全国の自治体のうち、37.5% が行う形態である。
- ③ **路線バス等の活用のみ** ⇒ **「交通資源活用型」**
スクールバスを導入している全国の自治体のうち、17.6% が行う形態である。

(4) 新たな輸送サービスの考察（具体的な連携方策案）

上記3つの形態で運行方法を分類し、試験運行モデル（新たな輸送サービス）を考察した。

【運行条件の設定】※「坂上地区」を中心とした連携方策

	① 従来踏襲型	② 併用型+α	③ 交通資源活用型
スクールバス	・現状のまま委託契約は継続 ・児童生徒数の減少から効率化（運行経路、車両小型化など）	・委託契約は見直し必要 ・使用車両を集約(台数減) ・路線バスを児童生徒は利用（拠点バス停で中学生は乗継）	・委託契約は廃止 ・スクールバスをみの運行なし ・路線バスを児童生徒は利用（定期券の公費負担は増大）
路線バス	・運行事業者の変更(支線のみ) ・路線定期運行の維持 ・運行形態の再々編が課題（ダイヤ増加、土日祝日運行等）	・地区内の運行事業者一本化 ・新たな形態への転換(併用)（朝夕は児童生徒の通学重視） （日中は高齢者等の移動重視）	・運行事業者の変更(支線のみ) ・路線定期運行の維持 ・運行形態の再々編が課題（朝夕増便、休日の部活動対応）
その他	・交通空白地の解消が課題（福祉バス等の導入検討）	・区域運行によるデマンド交通（交通空白地への対応可能）	・交通空白地の解消が課題（福祉バス等の導入検討）

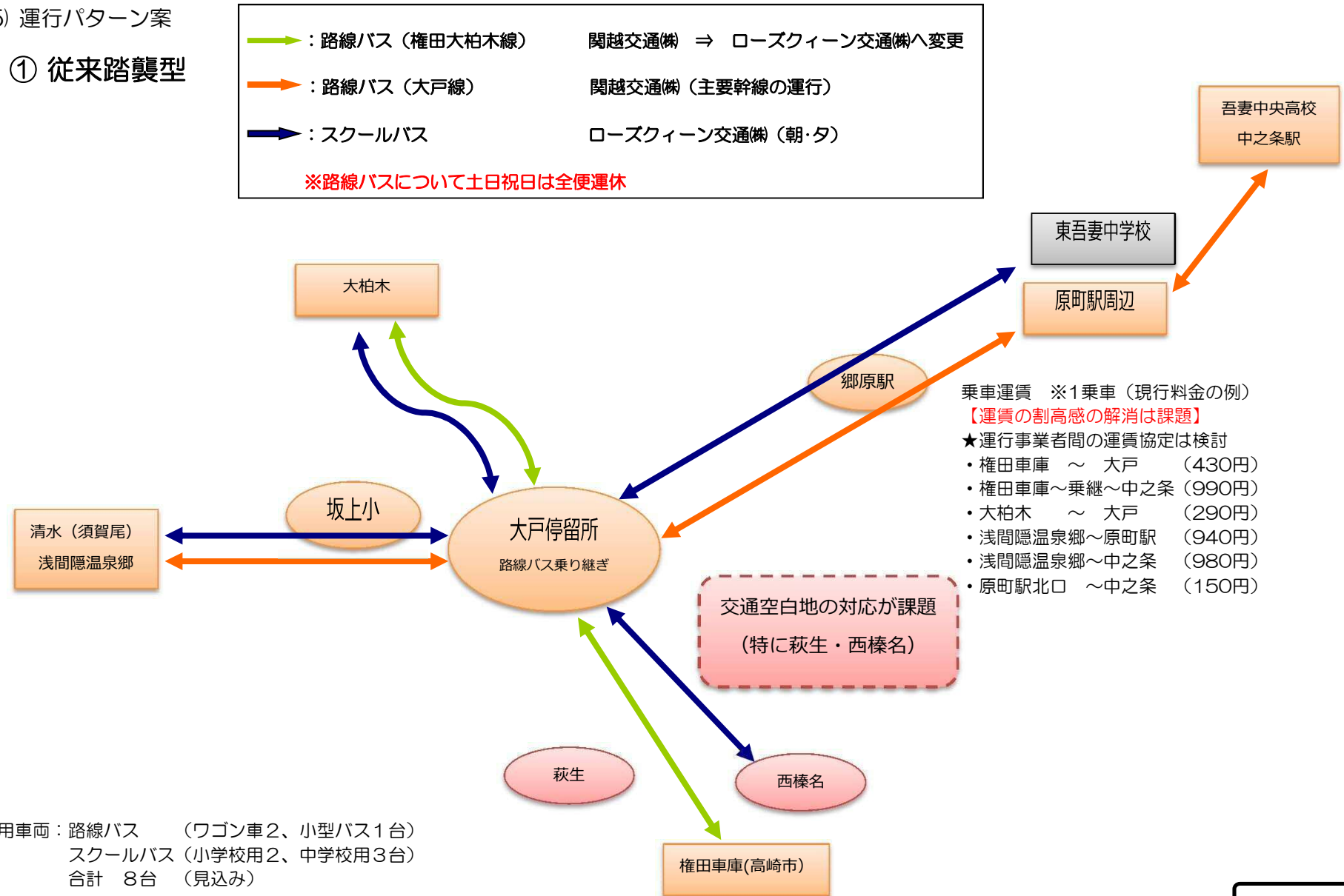
【将来推計・シュミレーション】※推計値は令和7(2025)年度を想定[5年後]

	① 従来踏襲型	② 併用型+α	③ 交通資源活用型
効率性	↓ 各々運行の継続	↗ 連携した運行となる	↑ 路線バスのみとなる
(車両台数)	→or↗ 見直しの形態次第	↘ 連携による総台数減	↘ スクールバス車両不要
(費用等)	→or↑ 見直しの形態次第	↘ トータル的に見れば	↘ 路線バスに一本化
利便性	→or↗ 見直しの形態次第	↗ 新たな形態の運行で	↘ 常時混乗による安全面
利用者動向	→or↗ 見直しの形態次第	↑ 新たな形態で増	↑ 児童生徒の利用で増
(児童生徒)	推計値：坂上地区内の5年後児童生徒数は↓(約30%減、坂上小学校 32人・中学校(坂上) 22人)		
(高齢者)	推計値：坂上地区内の5年後高齢者数は↘(約5%減、1,175人)		
財政負担	↑ 国庫補助金の減など	↘ 効率性向上で下向く	↗ 増便運行等で上向く
(営業収入)	→or↗ 見直しの形態次第	↗ 利用者の増で上向く	↑ 児童生徒の利用で増
(交付税措置)	→ 横ばい、各々運行	→or↗ 横ばいか上向く	↘ スクールバス算定なし

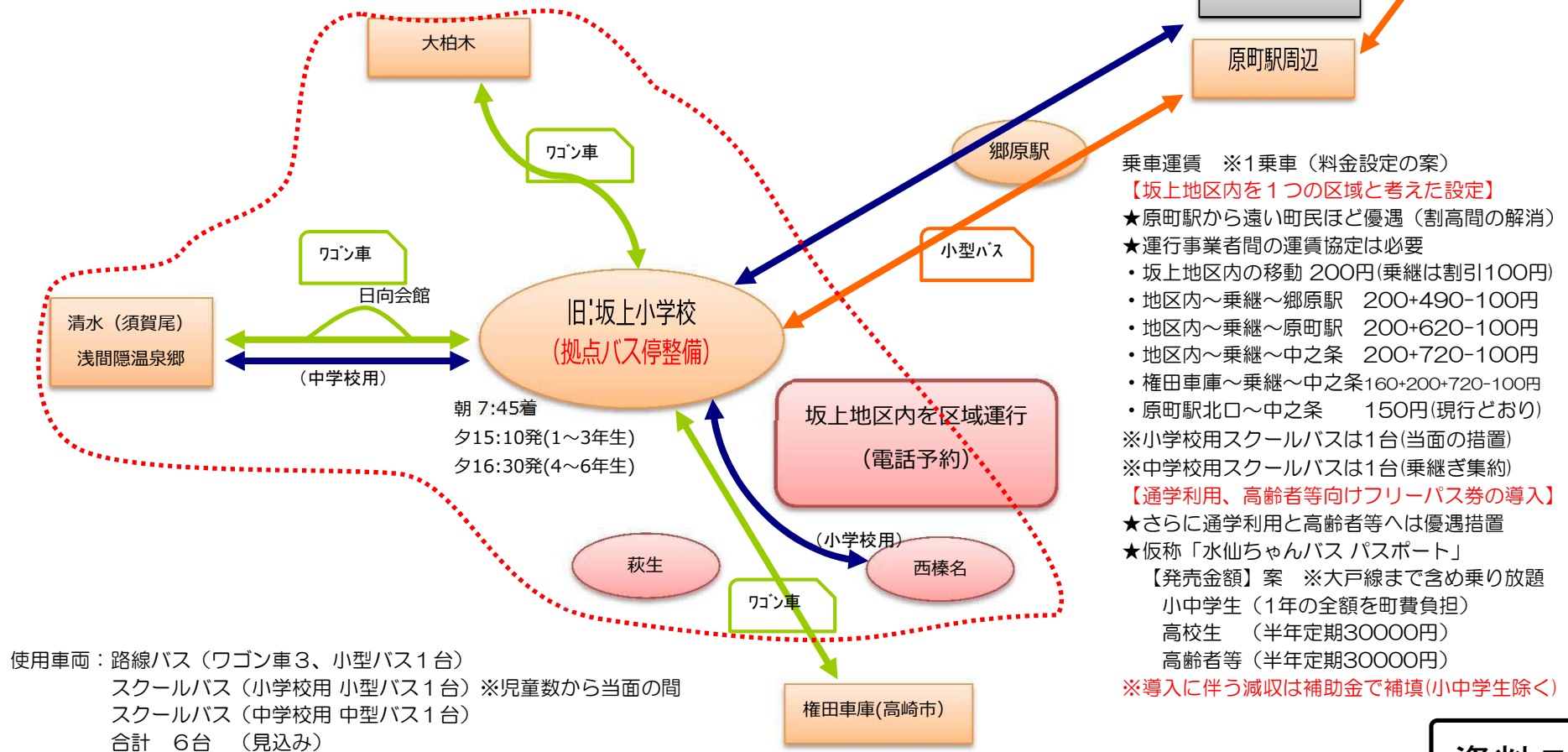
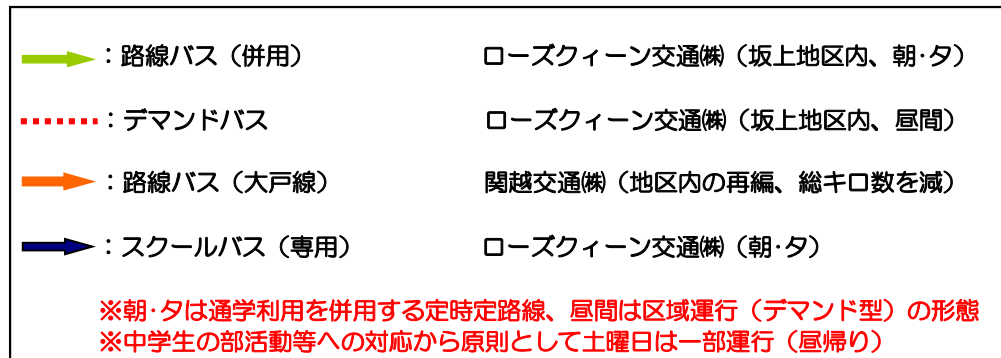
資料：教育委員会(学校基本調査等)、保健福祉課(高齢者福祉計画等)、企画課(乗合バス補助金・財政資料等)より

(5) 運行パターン案

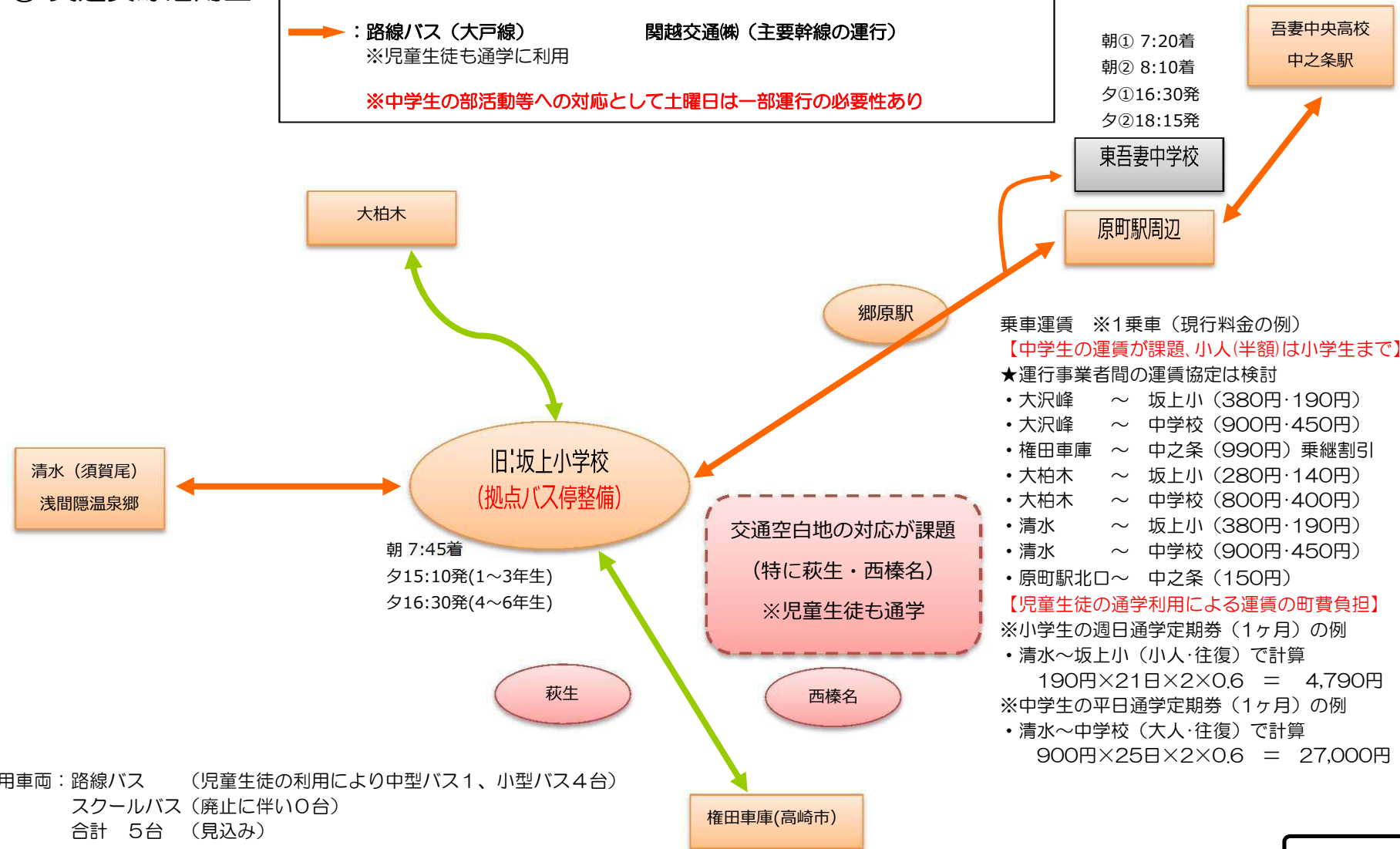
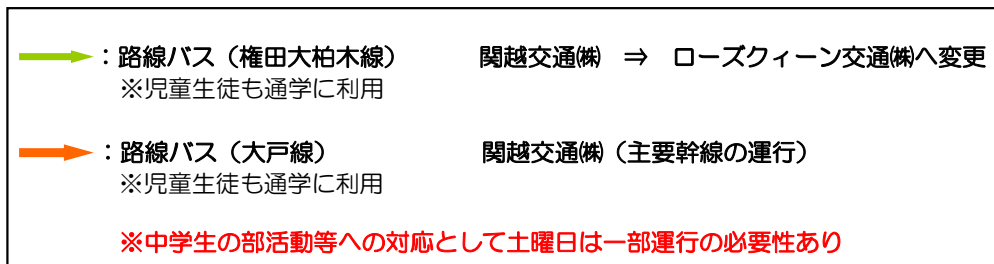
① 従来踏襲型



② 併用型+α



③ 交通資源活用型



(6) 運行方法別の収支等試算（シュミレーション）

（将来推計等）	平成30年度実績(概要)	① 従来踏襲型	② 併用型+α	③ 交通資源活用型
①～③パターンごと直近実績を基に利用想定を試算し、収支等シュミレーションを行った。 利用想定は、児童生徒や高齢者の推計値等を踏まえて試算した。 ※年間運行日数は①以外は296日で試算 ※5年後の推計〔令和7(2025)年度〕 ・坂上小学(児童数) 32人 ・中学校(坂上地区生徒数) 22人 ・高齢者(坂上地区65歳以上) 1,175人	【バス利用者】 ・権田大柏木線 1,910 人/年 ・大戸線 4,738 人/年 ・坂上小学 43 人 ・中学校(坂上) 45 人 【路線バスの経常収入】 ・権田大柏木線 573,087 円 ・大戸線 1,791,300 円 【路線バスの経常費用】 ・権田大柏木線 12,758,711 円 ・大戸線 9,576,708 円	【利用想定】 1,900人(横ばい) 4,700人(横ばい) 31人(▲28%) 22人(▲51%) 【収入見込み】 570,000円(横ばい) 1,790,000円(横ばい) 【支出見込み】 12,760,000円(横ばい) 9,580,000円(横ばい)	【利用想定】 30,000人(児童生徒含む) 8,000人(1.7倍) ※朝夕は通学併用の運行 ※昼間はデマンド運行(地区内) 【収入見込み】 1,600,000円(児童生徒分除く) 3,800,000円 【支出見込み】 23,000,000円(併用分の増) 14,000,000円(見直し有)	【利用想定】 13,000人(児童生徒含む) 23,000人(児童生徒含む) ※朝夕は通学重視で増便運行 ※昼間は車両増で増便運行 【収入見込み】 1,000,000円(児童生徒分除く) 3,100,000円(児童生徒分除く) 【支出見込み】 24,000,000円(約2倍) 20,000,000円(約2倍)
【路線バス】 予算等の内訳(試算) 運行費補助金(年間赤字補填額) うち群馬県の補助金 うち高崎市の負担金(権田大柏木線) 町費負担額 ① 特別交付税措置(①×80%) 町の実質負担額 ②	【権田大柏木線・大戸線】 ※年間運行日数は247日 20,856,088 円 収支率基準で適用外 0 円 協定に基づく負担 1,756,880 円 赤字負担の80% 15,279,000 円 3,820,208 円	【従来どおり】 車両3台(2路線)を維持 20,860,000円 0円 1,750,000円 19,110,000円 15,288,000円 3,822,000円	【スクールバスと併用+α】 3台(併用分)+1台(大戸線) 31,600,000円(約1.5倍) 0円(見込み) 1,750,000円(見込み) 29,850,000円(約1.6倍) 23,880,000円(約1.6倍) 5,970,000円(約1.6倍)	【路線バスに一本化】 車両5台(2路線)に増 39,900,000円(約1.9倍) 0円(見込み) 1,750,000円(見込み) 38,150,000円(約2倍) 30,520,000円(約2倍) 7,630,000円(約2倍)
【スクールバス】 予算等の内訳(試算) 運行業務委託料(年間支払い額) うち国庫補助金(へき地児童生徒援助) 普通交付税措置(500万円/台) 町の実質負担額 ③ ※校外活動等に係る車両借上料は別途 【1年間の町の実質負担額】 坂上地区における概算 (②+③)	【坂上小・東吾妻中への通学】 ※年間運行日数は296日 42,407,134 円 中学校統合後5年間 12,320,000 円 契約締結に応じて 25,000,000 円 5,087,134 円	【従来どおり】 車両5台(小2・中3)を維持 42,000,000円 0円(皆減) 25,000,000円 17,000,000円(約3.3倍)	【路線バスと連携】 2台(小1・中1)+3台(併用分) 20,500,000円(▲51%) 0円(皆減) 25,000,000円(5台分) 0円(措置内) ※委託料のうち地区内併用分 3,500,000円(定期代)	【廃止】 車両0台 ※公費負担(児童生徒定期代) 1,100,000円(小学生) 5,900,000円(中学生) 7,000,000円(町が負担)
	8,907,342 円 (対比)	20,822,000円(大幅増) 12,000,000円/年以上の増額	5,970,000円(▲33%) 2,900,000円/年以上の減額	14,630,000円(約1.6倍) 5,700,000円/年以上の増額
(特記事項)	路線バスは平成30年4月から再編(高校統廃合の対応等)した運行	交通空白地の解消に伴う経費が別途必要	路線定期+デマンド型運行 拠点バス停の整備費は必要	交通空白地の解消と拠点バス停の整備費が別途必要

坂上地区【現行】																																												
路線(乗合)バス	スクールバス(朝の登校時)																																											
大戸線、権田大柏木線	坂上小学校	東吾妻中学校(地区内)																																										
・土日祝日は全便運休 ・権田大柏木線の主な時刻表	利用児童数合計:45名	利用生徒数合計:33名																																										
<table><tr><th>発</th><th>ルート</th></tr><tr><td>6:53</td><td>大戸→権田車庫</td></tr><tr><td>7:05</td><td>清水→吾妻中央高校</td></tr><tr><td>7:20</td><td>権田車庫→大戸</td></tr><tr><td>9:10</td><td>大戸→権田車庫</td></tr><tr><td>9:10</td><td>大戸→大柏木</td></tr><tr><td>9:50</td><td>権田車庫→大戸</td></tr><tr><td>9:54</td><td>大柏木→大戸</td></tr><tr><td>12:04</td><td>大戸→権田車庫</td></tr><tr><td>12:04</td><td>大戸→大柏木</td></tr><tr><td>12:22</td><td>権田車庫→大戸</td></tr><tr><td>12:25</td><td>大柏木→大戸</td></tr><tr><td>14:55</td><td>大戸→権田車庫</td></tr><tr><td>14:55</td><td>大戸→大柏木</td></tr><tr><td>15:40</td><td>権田車庫→大戸</td></tr><tr><td>15:44</td><td>大柏木→権田車庫</td></tr><tr><td>16:55</td><td>権田車庫→浅間隠温泉郷</td></tr><tr><td>17:14</td><td>大戸→権田車庫</td></tr><tr><td>17:50</td><td>権田車庫→大戸</td></tr><tr><td>18:29</td><td>浅間隠温泉郷→権田車庫</td></tr><tr><td>18:46</td><td>大戸→大柏木</td></tr></table>	発	ルート	6:53	大戸→権田車庫	7:05	清水→吾妻中央高校	7:20	権田車庫→大戸	9:10	大戸→権田車庫	9:10	大戸→大柏木	9:50	権田車庫→大戸	9:54	大柏木→大戸	12:04	大戸→権田車庫	12:04	大戸→大柏木	12:22	権田車庫→大戸	12:25	大柏木→大戸	14:55	大戸→権田車庫	14:55	大戸→大柏木	15:40	権田車庫→大戸	15:44	大柏木→権田車庫	16:55	権田車庫→浅間隠温泉郷	17:14	大戸→権田車庫	17:50	権田車庫→大戸	18:29	浅間隠温泉郷→権田車庫	18:46	大戸→大柏木	・萩生方面(マイクロバス) 7:38発 分去→西榛名婦人ホーム→小学校 バス停6箇所、乗車人数22名 ・大柏木方面(マイクロバス)7:48発 大谷沢転回場→大柏木→小学校 バス停5箇所、乗車人数7名 ・須賀尾方面(中型バス) 7:35発 清水→小学校 バス停5箇所、乗車人数16名 ※中学校7号車の2便目と混乗する。	・6号車(ワゴン・マイクロ) 6:41/7:31発 大柏木→郷原駅前→中学校 バス停7箇所、乗車人数9+4名 (郷原駅前で岩島地区の生徒も乗車) ※1便目は運行後に岩島小学校へ ・7号車(マイクロ・中型) 6:40/7:35発 清水→(小学校)→中学校 バス停8箇所、乗車人数15名 ※1便目は運行後に岩島小学校へ ※2便目は小学生と混乗する。 ・8号車(マイクロバス) 6:45/7:40発 分去→厚田田中→中学校 バス停4箇所、乗車人数9+1名 (厚田田中で岩島地区の生徒も乗車)
発	ルート																																											
6:53	大戸→権田車庫																																											
7:05	清水→吾妻中央高校																																											
7:20	権田車庫→大戸																																											
9:10	大戸→権田車庫																																											
9:10	大戸→大柏木																																											
9:50	権田車庫→大戸																																											
9:54	大柏木→大戸																																											
12:04	大戸→権田車庫																																											
12:04	大戸→大柏木																																											
12:22	権田車庫→大戸																																											
12:25	大柏木→大戸																																											
14:55	大戸→権田車庫																																											
14:55	大戸→大柏木																																											
15:40	権田車庫→大戸																																											
15:44	大柏木→権田車庫																																											
16:55	権田車庫→浅間隠温泉郷																																											
17:14	大戸→権田車庫																																											
17:50	権田車庫→大戸																																											
18:29	浅間隠温泉郷→権田車庫																																											
18:46	大戸→大柏木																																											
坂上地区内はもとより、岩島地区のスクールバスとも連携し、年度毎の児童生徒数に配慮した効率的な年間運行を心がけている。																																												
※朝・夕には吾妻中央高校への 通学等利用があるが、日中には 1~2人/日の利用が現状。																																												
使用車両:3台 (大戸線1台、権田大柏木線2台)	使用車両:2台 (小学校用の実質的な台数)	使用車両:3台 (中学校用の実質的な台数)																																										
使用車両合計:8台																																												

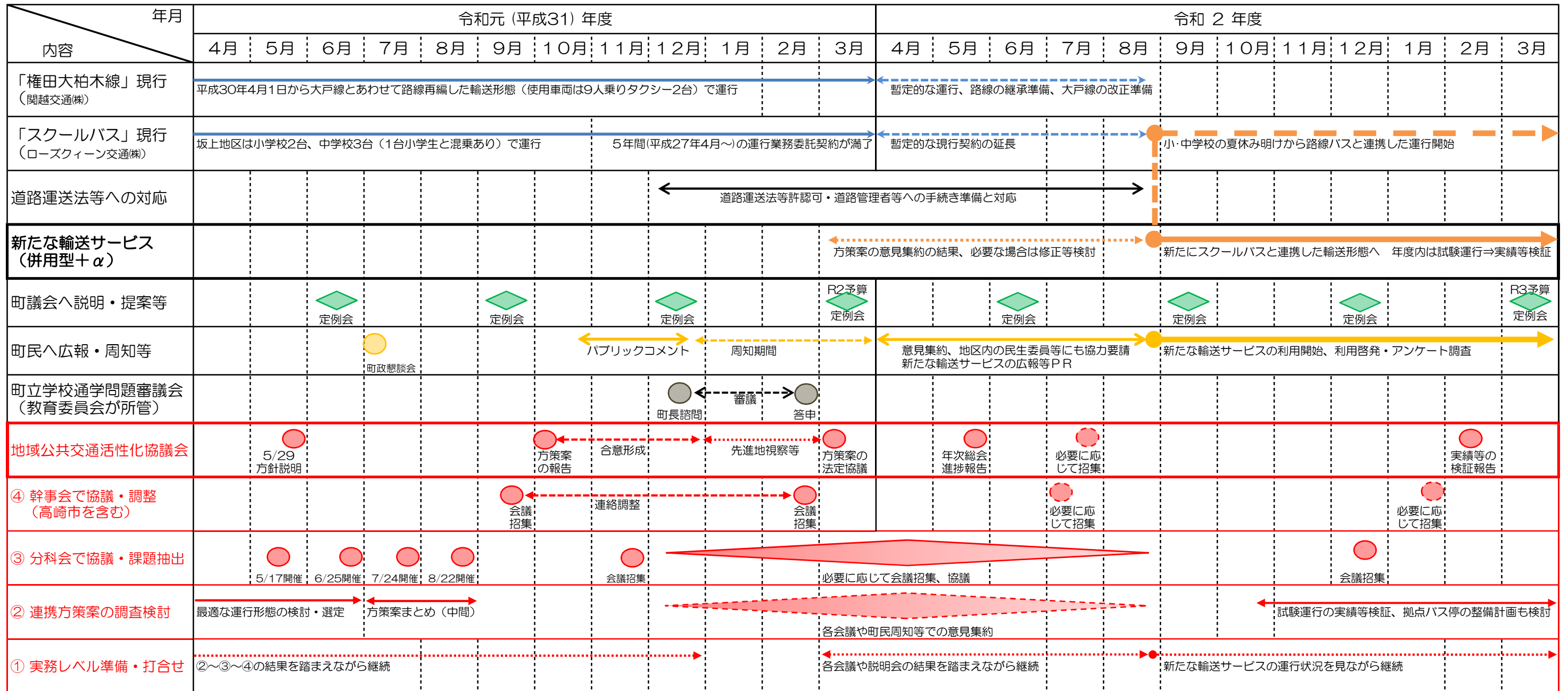
坂上地区【運行計画】連携案		
路線定期+デマンド型 運行	路線定期+デマンド型 運行	路線定期+デマンド型 運行
併用車両:1台(ワゴン車) 権田車庫 ⇄ 拠点バス停 ・旧坂上小跡地を拠点バス停として計画 ・月～土曜日の運行を想定(土曜日は一部) ・朝夕は通学、通院重視の「定時定路線」で、日中は「区域運行(デマンド型)」形態とする。 運行(発着)時刻の案 朝(6:30～7:35) ① 権田車庫 (6:30)発 ～ 拠点バス停 (6:50)着 ② 権田車庫 (7:15)発 ～ 拠点バス停 (7:35)着 ※小中学生及び高校生の登校時間に配慮 ※中学生は拠点バス停でスクールバス乗換え ※小学生は別途スクールバスあり(当面の間) 日中(7:40～17:00) 電話予約による坂上地区内の運行 原町方面へは大戸線に乗り継ぐ 拠点バス停で待機(途中、適時休憩) ※高齢者等の移動に配慮 ※中高生の早帰りや冬時間にも対応 夕(17:15～) ① 拠点バス停(17:15)発 ～ 権田車庫 (17:35)着 ② 拠点バス停(19:00)発 ～ 権田車庫 (19:20)着 ※中高生の下校時間に配慮	併用車両:1台(ワゴン車) 大柏木 ⇄ 拠点バス停 ・旧坂上小跡地を拠点バス停として計画 ・月～土曜日の運行を想定(土曜日は一部) ・朝夕は通学、通院重視の「定時定路線」で、日中は「区域運行(デマンド型)」形態とする。 運行(発着)時刻の案 朝(6:35～7:35) ① 大柏木 (6:35)発 ～ 拠点バス停 (6:50)着 ② 大柏木 (7:20)発 ～ 拠点バス停 (7:35)着 ※小中学生及び高校生の登校時間に配慮 ※中学生は拠点バス停でスクールバス乗換え ※小学生は拠点バス停で降車して登校 日中(7:40～17:00) 電話予約による坂上地区内の運行 原町方面へは大戸線に乗り継ぐ 拠点バス停で待機(途中、適時休憩) ※高齢者等の移動に配慮(小学生の下校まで) ※中高生の早帰りや冬時間にも対応 夕(17:15～) ① 拠点バス停(17:15)発 ～ 大柏木 (17:30)着 ② 拠点バス停(19:00)発 ～ 大柏木 (19:15)着 ※中高生の下校時間に配慮	併用車両:1台(ワゴン車) 清水(須賀尾) ⇄ 拠点バス停 ・旧坂上小跡地を拠点バス停として計画 ・月～土曜日の運行を想定(土曜日は一部) ・朝夕は通学、通院重視の「定時定路線」で、日中は「区域運行(デマンド型)」形態とする。 運行(発着)時刻の案 朝(6:35～7:35) ① 清水 (6:35)発 ～ 拠点バス停 (6:50)着 ② 清水 (7:20)発 ～ 拠点バス停 (7:35)着 ※小中学生及び高校生の登校時間に配慮 ※小中学生は別途スクールバスあり(当面の間) ※小学生は拠点バス停で降車して登校 日中(7:40～17:00) 電話予約による坂上地区内の運行 原町方面へは大戸線に乗り継ぐ 拠点バス停で待機(途中、適時休憩) ※高齢者等の移動に配慮(小学生の下校まで) ※中高生の早帰りや冬時間にも対応 夕(17:15～) ① 拠点バス停(17:15)発 ～ 清水 (17:30)着 ② 拠点バス停(19:00)発 ～ 清水 (19:15)着 ※中高生の下校時間に配慮
路線(乗合)バス 小型バス1台 (現行の大戸線を見直し、原町・中之条方面への乗り継ぎに配慮)		
スクールバス 小・中学校各1台専用 (方面別の人数を考慮し、地区内の通学と校外活動等に対応)		
使用車両合計:6台		

『路線バスとスクールバスの連携を図り、効率かつ利便向上を目指す方策』 ロードマップ〔行程表〕

～ 坂上地区での試験的な運行を目指す新たな輸送サービスの提供とその全町的な波及に向けて ～

東吾妻町地域公共交通活性化協議会
「スクールバスとの連携調査」分科会 作成

※赤色の内容は、本協議会の会議等の動きを示す。



東吾妻町地域公共交通活性化協議会 構成名簿

参考

「法」:地域公共交通の活性化及び再生に関する法律(平成19年法律第59号)

【委員の任期2年: H30. 4. 1～R2. 3. 31】

区分	委員	関係	役職等	備考
法第6条第2項第1号の委員	東吾妻町	計画作成町	町長	会長
法第6条第2項第2号の委員	東日本旅客鉄道株式会社高崎支社	公共交通事業者	企画室長	(鉄道)
	ジェイアールバス関東株式会社長野原支店	公共交通事業者	支店長	(バス)
	関越交通株式会社	公共交通事業者	取締役社長	(バス、スクールバス)
	浅白観光自動車株式会社	公共交通事業者	代表取締役	(タクシー)
	ローズクイーン交通株式会社	公共交通事業者	代表取締役	(スクールバス)
	一般社団法人群馬県バス協会	公共交通事業者	会長	
	一般社団法人群馬県タクシー協会	公共交通事業者	会長	
	群馬県 中之条土木事務所	道路管理者	所長	
	東吾妻町 建設課	道路管理者	課長	
	中之条町 建設課	道路管理者	課長	
法第6条第2項第3号の委員	吾妻警察署	公安委員会	署長	
	東地区代表(区長会)	公共交通利用者	会長	
	太田地区代表(区長会)	公共交通利用者	代表	
	原町地区代表(各区長の互選による)	公共交通利用者	上野区長	
	岩島地区代表(区長会)	公共交通利用者	会長	
	坂上地区代表(区長会長会)	公共交通利用者	会長	
	東吾妻町老人クラブ連合会	公共交通利用者	会長	
	東吾妻町手をつなぐ育成会	公共交通利用者	会長	
	東吾妻町こども園小学校中学校PTA連絡協議会	公共交通利用者	会長	
	高崎経済大学(地域科学研究所)	学識経験者	教授	(交通地理学)
	東吾妻町議会	町が必要と認める者	議長	
	東吾妻町議会	町が必要と認める者	副議長	
	東吾妻町議会(総務建設常任委員会)	町が必要と認める者	委員長	
	東吾妻町議会(文教厚生常任委員会)	町が必要と認める者	委員長	
	東吾妻町議会(行財政改革特別委員会)	町が必要と認める者	委員長	
	群馬県立吾妻中央高等学校	町が必要と認める者	校長	
	関東運輸局 群馬運輸支局	町が必要と認める者	支局長	
	群馬県 県土整備部 交通政策課	町が必要と認める者	課長	
	群馬県 吾妻振興局 吾妻行政県税事務所	町が必要と認める者	所長	
	東吾妻町商工会	町が必要と認める者	会長	監査委員
	東吾妻町社会福祉協議会	町が必要と認める者	会長	監査委員
	東吾妻町観光協会	町が必要と認める者	会長	
	東吾妻町	町が必要と認める者	副町長	副会長
	東吾妻町教育委員会	町が必要と認める者	教育長	
	関越交通労働組合	町が必要と認める者	執行委員長	
委員 36人				
関係者〔幹事会〕	高崎経済大学(地域科学研究所)	学識経験者	教授	
	関東運輸局 群馬運輸支局		運輸企画専門官	
	群馬県 県土整備部 交通政策課		地域交通係	
	高崎市 市民部 地域交通課		公共交通担当	
	高崎市 倉渕支所 地域振興課		地域振興担当	
	東吾妻町 保健福祉課		福祉バス担当	
	東吾妻町 まちづくり推進課		観光担当	
	東吾妻町教育委員会事務局 学校教育課		スクールバス担当	
事務局	東吾妻町 企画課	事務局長及び局員	課長及び職員	

**バスや列車に乗って
出かけましょう!!**



東吾妻町のマスコット「水仙ちゃん」